

10月1日（金）東近江市立御園小学校を訪問しました！

対談テーマ

「副次的な学籍」(副籍)による学びの機会の充実について

インクルーシブ教育システムの構築に向けた「副次的な学籍」の研究について、東近江市立御園小学校と県立八日市養護学校の取組を見聞し、特別支援学校と地域の小学校の連携による多様な学びの機会の充実について対談しました。

訪問した委員

土井 真一 委員 岡崎 正彦 委員 窪田 知子 委員 野村 早苗 委員

東近江市立御園小学校について

学校教育目標「助け合い とともに育つ みその子」のもと、自分のよさや可能性を見つけ、まわりの人のよさを認め、共に目標に向かって努力する子どもの育成を目指して教育活動を進めています。



県立八日市養護学校について

児童生徒一人ひとりの発達や障害および生活に応じた教育的ニーズを把握し、児童生徒が個性と持てる力を発揮できるように、社会生活に向けての自立を目指した教育の実践を進めています。



滋賀県における副次的な学籍の研究について

インクルーシブ教育システムの理念に基づき、障害のある児童生徒が居住地を通学区域とする小中学校と特別支援学校の両方に学籍を置き、小中学校での「共に学ぶ」ことと、特別支援学校での「専門的な学び」の両方を実現させる仕組みである副籍の制度化に向けた研究を行っています。

意見交換より

委員：この取組について、小学校の子どもたちや保護者にはどのように伝えてきたのか。

学校：子どもたちには授業内で、八日市養護学校の紹介をし、保護者には学級通信で伝えた。今後、養護学校の教員に障害理解につながる出前講座をお願いしたいと考えている。

委員：授業のレベルや児童の発達状況を踏まえ、どの学年が対象に適していると思うか。

学校：幼い頃から始める方がなじみやすいと感じられる。高学年は授業の難易度も上がるため、負担になる可能性がある。